

【資料5】

令和4年10月5日

第2回入間市廃棄物減量等推進審議会

家庭ごみの組成分析調査の結果について

目 次

1.調査概要.....	1
1.1 調査目的.....	1
1.2 調査内容.....	1
1) 調査地区.....	1
2) 調査期間.....	2
3) 調査試料の回収.....	2
4) 回収試料の分類.....	7
5) 調査結果の整理.....	9
2.調査結果.....	10
2.1 大分類.....	10
1) 可燃ごみ.....	10
2) 不燃ごみ.....	13
2.2 品目別の排出状況.....	15
1) 厨芥類(生ごみ).....	15
2) 紙類.....	17
3) プラスチック.....	18
3.考察等.....	19

1.調査概要

1.1 調査目的

排出されるごみの状況(組成)を把握しないと、具体的な減量化・資源化の検討は困難となる。例えば、可燃ごみに資源物が含まれているならば、これを資源物として分別してもらうための啓発が必要となるが、資源物等が一切含まれていない場合は、ごみ量の減らし方を啓発していかないと減量化は進まないことになる。このように、現状を把握することは、今後の施策等を検討する上で重要となる。

そこで、家庭ごみの可燃ごみ及び不燃ごみの組成調査を行い、今後のごみの減量化・資源化へ向けた検討の基礎資料を作成することを目的とする。

1.2 調査内容

1) 調査地区

調査対象とする地区に関しては、例えば「家庭系食品ロスの発生状況把握のためのごみ袋開袋調査手順書(令和元年5月版)」(令和元年5月、環境省)に次のように記載がある。

- ◆居住形態(戸建て、集合住宅)や地域環境(商業施設と住宅の混在状況、田畑が多い/少ない、住宅の密集状況)などを踏まえて、代表的な地点を選ぶ。
- ◆複数地点を選定することも有効である。

また市内は6つの地区に区分されることから、この6地区から1検体ずつ試料を採取することとして、居住形態、地域環境と合わせ、次の集積所を対象とした。

表 1-1 調査対象とする集積所

地区	集積所	建物種類・地域環境	世帯数・部屋数
①豊岡地区	No.1-1	ワンルーム	16部屋
	No.1-2	ワンルーム	16部屋
②東金子地区	No.2-1	住宅団地	20～30世帯
	No.2-2	住宅団地	20～30世帯
	No.2-3	住宅団地	20～30世帯
③金子地区	No.3-1	戸建て・住宅地域	10～30世帯
	No.3-2	戸建て・住宅地域	10～30世帯
	No.3-3	戸建て・住宅地域	10～30世帯
④宮寺地区	No.4-1	戸建て・田畑あり	10～20世帯
	No.4-2	戸建て・田畑あり	50世帯以上
⑤藤沢地区	No.5-1	マンション	50世帯以上
⑥西武地区	No.6-1	団地	20世帯
	No.6-2	団地	20世帯

2) 調査期間

組成調査は7月13日(水)と14日(木)の2日間で実施することとし、可燃ごみについては両日の回収地区を、不燃ごみについて7日(木)から13日(水)にかけて回収したものを両日に調査することとした。

なお、7月14日については、可燃ごみの回収車両が戻るまでの時間にも分類作業を行うため、不燃ごみ1検体を取り置くこととした。

表 1-2 調査日程

月日	回収		組成調査
7月7日(木)	不燃ごみ	①豊岡地区	-
7月8日(金)		⑥西武地区	-
7月11日(月)		⑤藤沢地区	-
7月12日(火)		②東金子地区	-
7月13日(水)		③金子地区	不燃ごみ5地区
	④宮寺・二本木地区	可燃ごみ2地区	
	可燃ごみ		①豊岡地区
		②東金子地区	
7月14日(木)		③金子地区	
		④宮寺・二本木地区	
	⑤藤沢地区		
	⑥西武地区		

3) 調査試料の回収

可燃ごみの回収は当社にて実施し、不燃ごみの回収は市が実施することとした。通常の収集時間が午前8時35分以降となることから、8時30分以降にクリーンセンターを出発し、回収を行うこととした。

対象の集積所においては、可燃ごみ、不燃ごみとも全量を回収し、これを調査試料とした。

可燃ごみの回収時の様子を次頁以降に示す。



写真-1(1) 豊岡地区(その1)



写真-1(2) 豊岡地区(その2)



写真-2(1) 東金子地区(その1)



写真-2(2) 東金子地区(その2)



写真-2(3) 東金子地区(その3)



写真-3(1) 宮寺・二本木地区(その1)



写真-3(2) 宮寺・二本木地区(その2)



写真-4 藤沢地区



写真-5(1) 金子地区(その1)



写真-5(2) 金子地区(その2)



写真-5(3) 金子地区(その3)



写真-6(1) 西武地区(その1)



写真-6(2) 西武地区(その2)

4) 回収試料の分類

回収した可燃ごみ及び不燃ごみについては、表 1-3 の区分に従って分類し、項目ごとの重量を計測するとともに、写真撮影を行った。



写真-7 分類作業の様子

表 1-3 調査日程

区分	No	内容
厨芥類(生ごみ)		
調理くず	1	野菜・果物の皮、くず、芯、骨など、基本は食べられないもの
直接廃棄	2	半分以上原型を保持したまま廃棄されたもの、調理くずではあるが食べられる部分が残っているものは直接廃棄に含める
食べ残し	3	調理され又は生のまま食卓にのぼったもの
紙類		
新聞・チラシ	4	新聞とチラシ。包み紙や油の拭き取りなどに利用されたものは「その他の紙」。
雑誌・雑がみ	5	文庫本・単行本・辞典等も雑誌と見なす。家庭から出る紙・紙箱で、新聞・雑誌・ダンボール・紙バック以外のものが「雑がみ」となる。紙製容器包装を含む。紙箱(菓子・ティッシュなどの箱)、ノート、コピー用紙、封筒・はがき(個人情報部分は可燃ごみへ)、包装紙、紙袋、メモ用紙、カレンダー、台紙、紙製バインダー、トイレトペーパーの芯など。アルバムやファイルはその他の可燃ごみ(その他金属)。
ダンボール	6	波型の芯があるものがダンボール。留め金は不燃ごみ。
紙バック	7	飲料用紙製容器包装で、「紙バック」マークの付いているものが基本。アルミコーティングされたものは「その他の紙」とする。
紙おむつ	8	紙おむつのみ。
その他の紙	9	紙類として選別可能なもので、再利用された新聞紙なども含む。ビニールコーティング紙・感圧紙・圧着はがき・写真・紙コップ・紙皿などのワックス加工紙・防水加工紙・汚れた紙・クレヨンで書かれた紙・おのついた紙(粉石鹸、線香の箱など)・アルミコーティング紙(カップ麺のふたなど)など。
布類		
資源になるもの	10	衣類、タオル、カーテン等。
資源にならないもの	11	下着、ぬいぐるみ、帽子、手袋、じゅうたん等。汚れた衣類等。
木くず等		
草木類(草・生木・枝類)	12	生木等の剪定枝、落ち葉、刈草など。
その他の木類	13	割り箸、楊枝、木片など。
皮革類(ゴム・皮革)	14	革靴、カバン、長靴、ゴム手袋等。
プラスチック類		
プラスチック・ビニール類(資源)	15	プラスチックマークのある容器やふた、包装類(発泡スチロール、食品用トレイ、お菓子の袋、冷凍食品の袋、たまごや豆腐などのパック、ケチャップ・シャンプー・洗剤等の容器、ペットボトルのふたやラベルなど)など。
プラスチック・ビニール類(汚れ有)	16	プラスチック・ビニール類のうち、汚れが取れず、資源として利用できないもの。
ペットボトル	17	飲料用又は醤油・みりん用等に限る。
特定プラスチック使用製品	18	プラスチック資源循環促進法で削減対象となっているスプーン、ヘアブラシ、ハンガー等の12品目については、重量と個数を確認する。
その他の軟質プラスチック類	19	スポンジ、ビデオテープ・カセットテープ(ケース含む)など(特定プラスチック使用製品を除く)。
その他の硬質プラスチック類	20	歯ブラシ、スプーン、おもちゃなどの硬いプラスチック類(特定プラスチック使用製品を除く)。
その他のプラスチック類	21	金属などが混ざったもの(ビニール傘、電気コード、ラジオ、洗濯バサミ)や在宅医療に伴うバック類。
金属類		
スチール缶	22	スチール表示のある空き缶
アルミ缶	23	アルミ表示のある空き缶
スプレー缶等	24	スプレー缶(スプレー缶式消火器含む)や卓上ガスコンロ用ガスボンベ等。使い捨てライター、ガスライターはここに含む。
その他金属	25	鍋、やかん、フライパン、包丁、小型電化製品などで概ね金属が使われている製品
ガラス類		
ガラスびん	26	購入時、飲み物や食べ物等の中身が入っているびん。
びん以外のガラス	27	化粧品の容器、ガラス製品(食器類)、板ガラス、鏡など。
せともの・石類	28	食器、置物など
土砂・残土・灰	29	
電池類	30	乾電池、ボタン電池、充電電池等。
蛍光管・白熱球等	31	スリム管、LED管を含む。
体温計・温度計	32	水銀使用に限る。
その他の可燃ごみ	33	廃食用油、ティッシュペーパー、紙ひもやシールなどのリサイクルできない紙製のもの、レシート、おがくず、フラットファイルなど
その他の不燃ごみ	34	小型家電、傘、乾燥剤、カミソリ、アルミホイール、バインダーなど
ごみ袋		
外袋	35	ごみ袋として利用されていた袋
内袋	36	内袋として利用されていた袋

5) 調査結果の整理

調査結果を整理するにあたり、表の中では次のように記載している。

0.0: 値はあるものの、四捨五入した値が 0.1 に満たないもの。

—: その項目の排出がなかったもの

また、「0.0」の場合は図中にそのように記載するが、「—」の場合は図中に記載しないこととした。

2.調査結果

2.1 大分類

1) 可燃ごみ

可燃ごみの組成調査結果を大分類別に整理し、図 2-1 及び表 2-1 に示す。

6 地区の組成割合の単純平均では、厨芥類が 34.3%で最も多く、次いでその他の可燃ごみが 21.6%、紙類が 17.8%、木くず等が 14.6%、プラスチック類が 7.6%の順となっており、不燃ごみは 1.9%となっている。

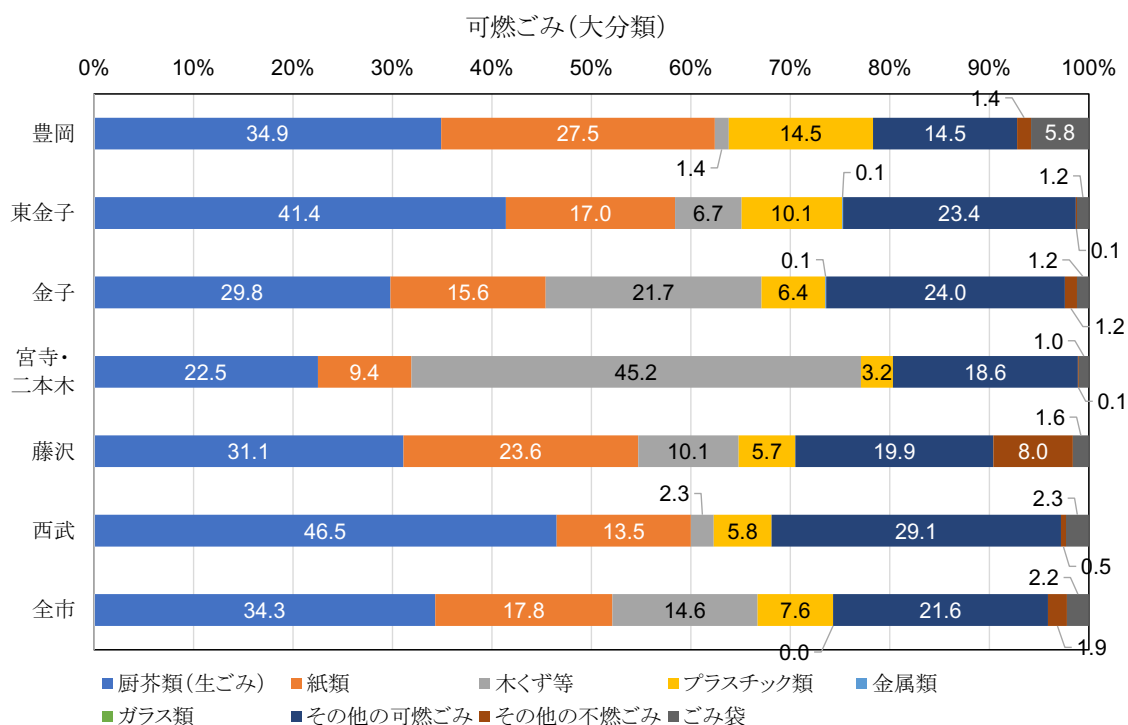


図 2-1 可燃ごみの組成調査結果(大分類)

表 2-1 可燃ごみの組成調査結果(大分類)

(単位: %)

区分	豊岡	東金子	金子	宮寺・二本木	藤沢	西武	全市
厨芥類(生ごみ)	34.9	41.4	29.8	22.5	31.1	46.5	34.3
紙類	27.5	17.0	15.6	9.4	23.6	13.5	17.8
木くず等	1.4	6.7	21.7	45.2	10.1	2.3	14.6
プラスチック類	14.5	10.1	6.4	3.2	5.7	5.8	7.6
金属類	-	0.1	0.1	-	-	-	0.0
ガラス類	-	-	-	-	-	-	-
その他の可燃ごみ	14.5	23.4	24.0	18.6	19.9	29.1	21.6
その他の不燃ごみ	1.4	0.1	1.2	0.1	8.0	0.5	1.9
ごみ袋	5.8	1.2	1.2	1.0	1.6	2.3	2.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

地区別の特徴を整理すると、次のとおりである。

(1) 豊岡地区

厨芥類が 34.9%で最も多く、次いで紙類が 27.5%、プラスチック類とその他の可燃ごみが 14.5%の順であり、木くず等は 1.4%と少ない。

厨芥類は市の平均的な値だが、紙類とプラスチック類が多く、木くず等は非常に少なく、ワンルームマンションの排出の特性を表していると考えられる。

(2) 東金子地区

厨芥類が 41.4%で最も多く、次いでその他の可燃ごみが 23.4%、紙類が 17.0%、プラスチック類が 10.1%、木くず等は 6.7%の順である。

東金子地区は建売の戸建て住宅が中心の地域だが、全体的に、市の平均的な割合となっている。

(3) 金子地区

厨芥類が 29.8%で最も多く、次いでその他の可燃ごみが 24.0%、木くず等が 21.7%、紙類が 15.6%、プラスチック類が 6.4%となっている。

金子地区は戸建て住宅が中心で、集積所周辺は畑地等があまり見られなかった。特性的には東金子地区と類似すると考えられるが、木くず等の割合が大きく異なっている。これは、金子地区が古くからの住宅が中心であるのに対し、東金子地区は建売住宅中心であり、庭の大きさなどが影響していると考えられる。

(4) 宮寺・二本木地区

木くず等が 45.2%で最も多く、次いで厨芥類が 22.5%、その他の可燃ごみが 18.6%、紙類が 9.4%で、プラスチック類は 3.2%と少ない。

宮寺・二本木地区の集積所周辺は畑地等も多く、比較的広い戸建てが多い地域と言える。それが木くず等の割合の大きさに反映されていると考えられる。また、プラスチック類の割合が小さいが、木くず等が多いこと以外に、紙類との対比でもプラスチックの割合が小さいことがわかる。調査結果の詳細での検討が必要だが、容器包装プラスチックの排出量が小さいことが予想される。

(5) 藤沢地区

厨芥類が 31.1%で最も多く、次いで紙類が 23.6%、その他の可燃ごみが 19.9%、木くず等が 10.1%、プラスチック類が 5.7%であり、その他不燃ごみが 8.0%と多い。

藤沢地区はマンションのため、木くずの排出は少ないと予想したが、マンション周辺の植栽等もあり、排出されている。また、プラスチック類の割合が小さく、その他不燃物の割合が非常に大きくなっている。

(6) 西武地区

厨芥類が 46.5%で最も多く、次いでその他の可燃ごみが 29.1%、紙類が 13.5%、プラスチック類が 5.8%、木くず等は 2.3%と少ない。

西武地区は団地であり、回収当日も周辺の草刈りなどがされていたが、これらが排出されないためか、木くず等の割合が小さい。

2) 不燃ごみ

不燃ごみの組成調査結果を大分類別に整理し、図 2-2 及び表 2-2 に示す。

6 地区の組成割合の単純平均では、プラスチック類が 50.6%で最も多く、次いでその他の不燃ごみが 18.4%、金属類が 17.5%、ガラス類が 6.6%の順となっており、可燃ごみは 5.0%となっている。

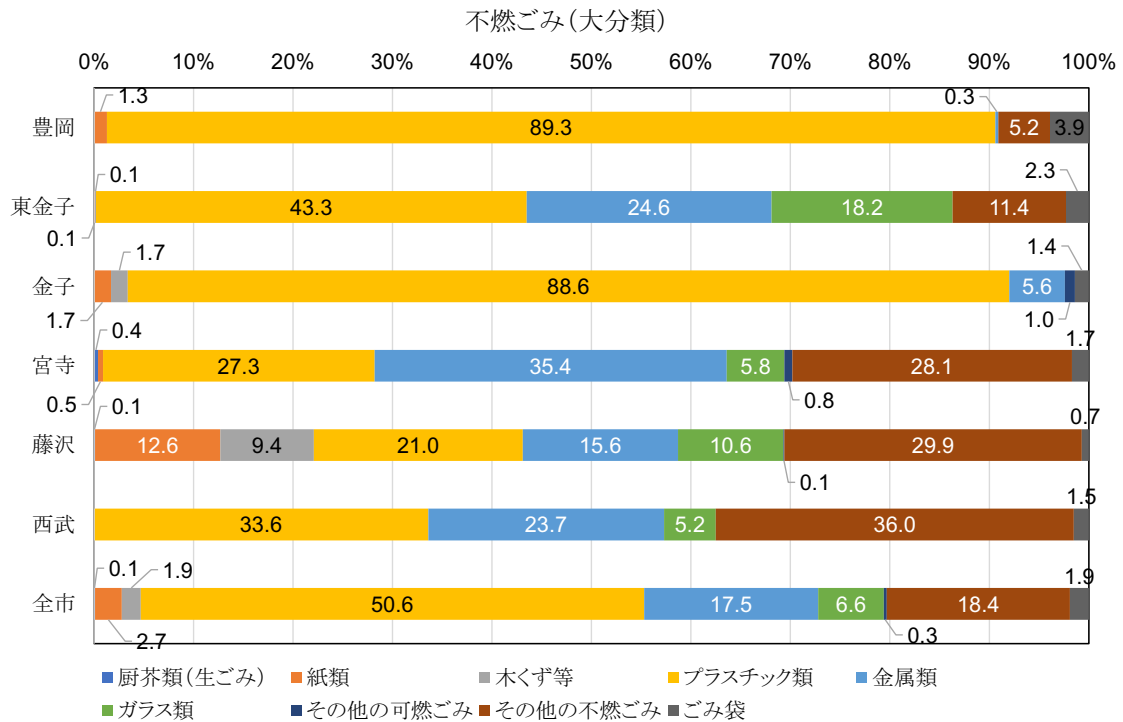


図 2-2 不燃ごみの組成調査結果(大分類)

表 2-2 不燃ごみの組成調査結果(大分類)

(単位:%)

区分	豊岡	東金子	金子	宮寺	藤沢	西武	全市
厨芥類(生ごみ)	-	-	-	0.4	0.1	-	0.1
紙類	1.3	0.1	1.7	0.5	12.6	-	2.7
木くず等	-	0.1	1.7	-	9.4	-	1.9
プラスチック類	89.3	43.3	88.6	27.3	21.0	33.6	50.6
金属類	0.3	24.6	5.6	35.4	15.6	23.7	17.5
ガラス類	-	18.2	-	5.8	10.6	5.2	6.6
その他の可燃ごみ	-	-	1.0	0.8	0.1	-	0.3
その他の不燃ごみ	5.2	11.4	-	28.1	29.9	36.0	18.4
ごみ袋	3.9	2.3	1.4	1.7	0.7	1.5	1.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

地区別の特徴を整理すると、次のとおりである。

(1) 豊岡地区

プラスチック類が 89.3%と大半を占め、次いでその他の不燃ごみが 5.2%の順である。

市の平均値と比較し、プラスチック類が圧倒的に多い。

(2) 東金子地区

プラスチック類が 43.3%で最も多く、次いで金属類 24.6%、ガラス類 18.2%、その他の不燃ごみ 11.4%の順である。

市の平均値と比較し、ガラス類と金属類が多くなっている。

(3) 金子地区

プラスチック類が 88.6%と大半を占め、次いで金属類が 5.6%の順である。

市の平均値と比較して、豊岡地区同様、プラスチック類が圧倒的に多い。

(4) 宮寺・二本木地区

金属類が 35.4%で最も多く、次いでその他の不燃ごみが 28.1%、プラスチック類が 27.3%、ガラス類が 5.8%の順である。

(5) 藤沢地区

その他の不燃ごみが 29.9%で最も多く、次いでプラスチック類が 21.0%、金属類が 15.6%、紙類が 12.6%、ガラス類が 10.6%、木くず等が 9.4%の順である。

他の地区と比較して紙類と木くず等が多く、マンションのため、可燃ごみを含めた可能性がある。

(6) 西武地区

その他の不燃ごみが 36.0%で最も多く、次いでプラスチック類が 33.6%、金属類が 23.7%、ガラス類が 5.2%の順である。

2.2 品目別の排出状況

1) 厨芥類(生ごみ)

厨芥類の排出状況を整理し、表 2-3 に示す。

なお、今回の調査では、可燃ごみについては週 3 回収集の水曜日と木曜日のため 2 日間のごみ量、不燃ごみは週 1 回収集のため 7 日間のごみ量となるため、日数により排出量を調整している。

厨芥類は、不燃ごみに 0.03% 紛れていたものの、基本的に可燃ごみとして排出されており、分別率 99.97% と十分に分別されている。

また、直接廃棄が 13.4%、食べ残しが 22.7% で、計 36.1% が食品ロスであり、これを削減していくことが望まれる。

表 2-3 厨芥類の排出状況

区分	No	豊岡		東金子		金子			
厨芥類(生ごみ)(kg)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃		
調理くず	1	0.08	-	22.33	-	19.73	-		
直接廃棄	2	-	-	10.82	-	3.90	-		
食べ残し	3	0.16	-	8.22	-	2.44	-		
合計		0.24	-	41.37	-	26.07	-		
厨芥類(生ごみ)(%)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃		
調理くず	1	33.33	-	53.98	-	75.68	-		
直接廃棄	2	-	-	26.15	-	14.96	-		
食べ残し	3	66.67	-	19.87	-	9.36	-		
合計		100.00	-	100.00	-	100.00	-		
区分	No	宮寺・二本木		藤沢		西武		平均	
厨芥類(生ごみ)(kg)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃
調理くず	1	27.31	0.05	14.14	0.01	8.50	-	-	-
直接廃棄	2	3.40	-	5.23	-	0.67	-	-	-
食べ残し	3	5.32	-	3.30	-	1.12	-	-	-
合計		36.03	0.05	22.67	0.01	10.29	-	-	-
厨芥類(生ごみ)(%)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃
調理くず	1	75.69	0.14	62.36	0.03	82.60	-	63.94	0.03
直接廃棄	2	9.42	-	23.06	-	6.51	-	13.35	-
食べ残し	3	14.74	-	14.55	-	10.88	-	22.68	-
合計		99.86	0.14	99.97	0.03	100.00	-	99.97	0.03



写真-8(1) 直接廃棄された食品廃棄物(その1)



写真-8(2) 直接廃棄された食品廃棄物(その2)

2) 紙類

紙類の排出状況を整理し、表 2-4 に示す。

紙類は、98.4%が可燃ごみとして排出されており、分別率は高い。なお、雑誌・雑がみが 1.6%不燃ごみとして排出されているが、包装紙等と一緒に排出された可能性もある。

但し、紙おむつとその他の紙以外は、全て資源として利用できるものであり、紙類の約 70%は資源として利用可能であることから、これらの啓発を進めていくことが重要である。

表 2-4 紙類の排出状況

区分	No	豊岡		東金子		金子			
紙類(kg)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃		
新聞・チラシ	4	0.02	-	1.70	-	0.16	-		
雑誌・雑がみ	5	0.16	0.01	5.24	0.01	4.26	0.03		
ダンボール	6	-	-	0.34	-	4.06	-		
紙バック	7	-	-	0.42	-	0.46	-		
紙おむつ	8	-	-	7.52	-	3.76	-		
その他の紙	9	0.01	-	1.84	-	0.94	-		
合計		0.19	0.01	17.06	0.01	13.64	0.03		
紙類(%)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃		
新聞・チラシ	4	9.93	-	9.96	-	1.17	-		
雑誌・雑がみ	5	79.43	5.67	30.69	0.07	31.17	0.21		
ダンボール	6	-	-	1.99	-	29.70	-		
紙バック	7	-	-	2.46	-	3.37	-		
紙おむつ	8	-	-	44.05	-	27.51	-		
その他の紙	9	4.96	-	10.78	-	6.88	-		
合計		94.33	5.67	99.93	0.07	99.79	0.21		
区分	No	宮寺・二本木		藤沢		西武		平均	
紙類(kg)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃
新聞・チラシ	4	0.20	-	0.96	-	0.34	-	-	-
雑誌・雑がみ	5	7.00	0.01	9.16	0.60	1.72	-	-	-
ダンボール	6	1.48	-	3.88	-	0.06	-	-	-
紙バック	7	0.34	0.04	0.30	-	0.06	-	-	-
紙おむつ	8	3.02	-	1.66	-	0.06	-	-	-
その他の紙	9	3.10	0.01	1.22	-	0.76	-	-	-
合計		15.14	0.06	17.18	0.60	3.00	-	-	-
紙類(%)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃
新聞・チラシ	4	1.32	-	5.40	-	11.33	-	6.52	-
雑誌・雑がみ	5	46.04	0.08	51.52	3.37	57.33	-	49.36	1.57
ダンボール	6	9.74	-	21.82	-	2.00	-	10.88	-
紙バック	7	2.24	0.26	1.69	-	2.00	-	1.96	0.04
紙おむつ	8	19.86	-	9.34	-	2.00	-	17.13	-
その他の紙	9	20.39	0.08	6.86	-	25.33	-	12.53	0.01
合計		99.59	0.41	96.63	3.37	100.00	-	98.38	1.62

3) プラスチック

プラスチックの排出状況を整理し、表 2-5 に示す。

汚れ有のプラスチックは、ほとんどが可燃ごみ(98.1% = 37.79% ÷ (37.79% + 0.71%))、硬質プラスチックはほとんどが不燃ごみ(89.3% = 13.73% ÷ (1.65% + 13.73%))で排出されており、この部分では適正な分別が行われていることがわかる。

なお、資源として利用できるプラスチック(ペットボトルも含む)が可燃、不燃を合わせて 29%(= 14.36% + 14.02% + 0.17% + 0.34%)ほどあり、これを資源化していくことで、焼却処理量及び最終処分量を削減し、資源化率の向上につなげることができる。

表 2-5 プラスチックの排出状況

区分	No	豊岡		東金子		金子			
プラスチック類(kg)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃		
プラスチック・ビニール類(資源)	15	0.06	0.53	2.88	0.51	0.86	0.01		
プラスチック・ビニール類(汚れ有)	16	0.04	0.03	3.18	0.01	3.90	-		
ペットボトル	17	-	0.01	0.10	0.03	0.02	-		
特定プラスチック使用製品	18	-	0.01	0.20	0.00	0.06	0.05		
その他の軟質プラスチック類	19	-	0.02	2.74	0.27	0.46	0.04		
その他の硬質プラスチック類	20	-	0.13	1.00	1.81	0.14	1.26		
その他のプラスチック類	21	-	0.06	-	0.75	0.12	0.14		
合計		0.10	0.78	10.10	3.39	5.56	1.49		
プラスチック類(%)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃		
プラスチック・ビニール類(資源)	15	6.84	59.93	21.35	3.81	12.21	0.08		
プラスチック・ビニール類(汚れ有)	16	4.56	3.91	23.57	0.04	55.35	-		
ペットボトル	17	-	1.30	0.74	0.25	0.28	-		
特定プラスチック使用製品	18	-	0.65	1.48	0.02	0.85	0.65		
その他の軟質プラスチック類	19	-	1.95	20.31	1.99	6.53	0.57		
その他の硬質プラスチック類	20	-	14.33	7.41	13.43	1.99	17.84		
その他のプラスチック類	21	-	6.51	-	5.59	1.70	1.95		
合計		11.40	88.60	74.86	25.14	78.91	21.09		
区分	No	宮寺・二本木		藤沢		西武		平均	
プラスチック類(kg)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃
プラスチック・ビニール類(資源)	15	1.80	0.80	0.90	0.23	0.16	0.14	-	-
プラスチック・ビニール類(汚れ有)	16	2.86	0.03	3.16	-	1.10	-	-	-
ペットボトル	17	-	0.02	-	0.01	-	-	-	-
特定プラスチック使用製品	18	0.01	0.00	0.02	0.05	0.02	0.01	-	-
その他の軟質プラスチック類	19	0.44	0.68	0.04	0.17	0.01	0.46	-	-
その他の硬質プラスチック類	20	0.01	1.24	0.02	0.37	-	0.34	-	-
その他のプラスチック類	21	-	0.55	0.02	0.17	-	0.03	-	-
合計		5.12	3.32	4.16	1.00	1.29	0.99	-	-
プラスチック類(%)		可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃	可燃	不燃
プラスチック・ビニール類(資源)	15	21.32	9.48	17.44	4.54	7.00	6.25	14.36	14.02
プラスチック・ビニール類(汚れ有)	16	33.87	0.34	61.24	-	48.16	-	37.79	0.71
ペットボトル	17	-	0.27	-	0.22	-	-	0.17	0.34
特定プラスチック使用製品	18	0.12	0.03	0.39	0.89	0.88	0.50	0.62	0.46
その他の軟質プラスチック類	19	5.21	8.05	0.78	3.32	0.44	20.26	5.54	6.03
その他の硬質プラスチック類	20	0.12	14.69	0.39	7.09	-	15.01	1.65	13.73
その他のプラスチック類	21	-	6.50	0.39	3.32	-	1.50	0.35	4.23
合計		60.64	39.36	80.62	19.38	56.47	43.53	60.49	39.51

3.考察等

(1) 資源化率の向上

紙類は全市の可燃ごみの 17.8%あり、このうちの約 70% (≒68.72%) が資源化可能と判断される。また、プラスチック類は可燃ごみの 7.6%あり、このうちの約 15% (≒14.36% + 0.17%) が資源化可能と判断される。これらを合わせると、可燃ごみ全体の 14% (≒ (17.8% × 68.72%) + (7.6% × 14.55%)) ほどは資源として利用可能なものが排出されており、これらを資源へ誘導することが必要である。

(2) 食品ロス

厨芥類のうち、直接廃棄が 13.4%、食べ残しが 22.7%で、計 36.1%が食品ロスであった。これに関しては、削減するための啓発や仕組みを構築していくことが必要である。

(3) 製品プラスチック

一般に製品プラとなる硬質プラスチック類は、可燃ごみ中のプラスチックの 1.7%、不燃ごみ中のプラスチックの 13.7%である。この量は、可燃ごみの 0.1%、不燃ごみの 6.9%となる。

入間市においては、令和5年度から製品プラスチックの回収を予定しているが、分別区分変更当初は適正な排出が少なくなる可能性があり、市民に対する十分な周知とともに、区分の仕方をわかりやすく設定することが必要である。

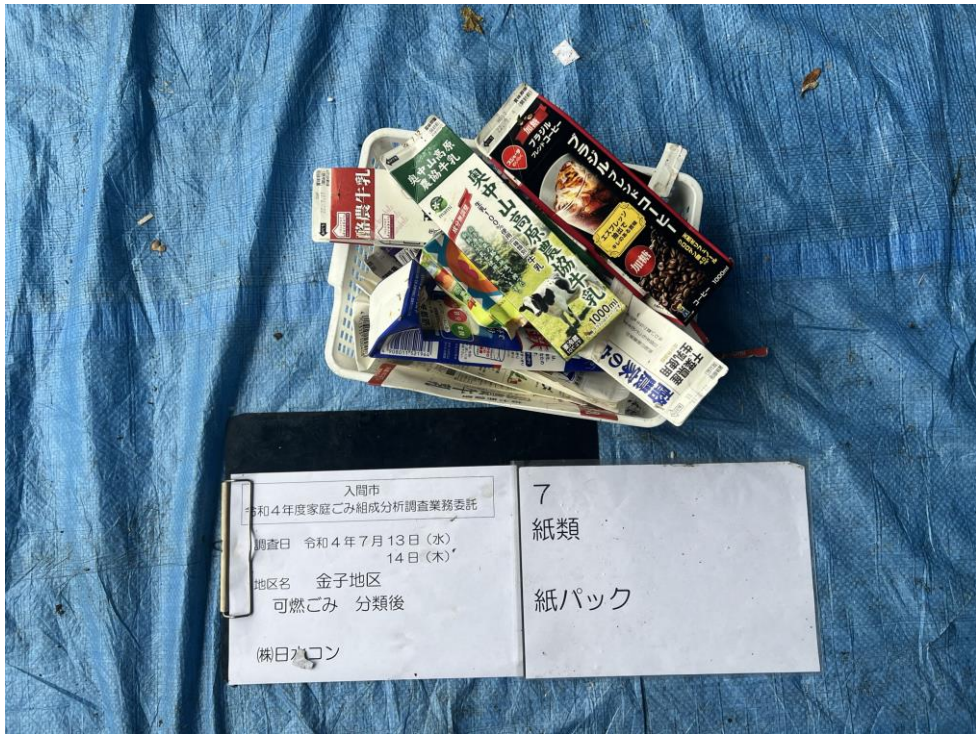


写真-9(1) 可燃ごみとして排出された紙パック(資源化可能)

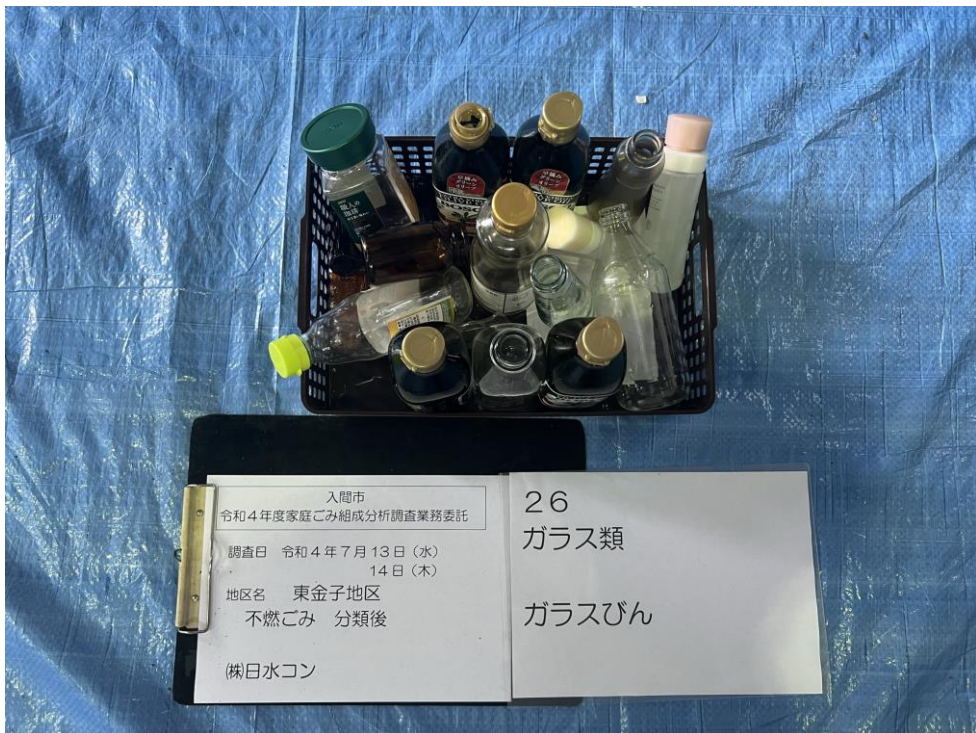


写真-9(2) 不燃ごみとして排出されたガラスびん(飲料や食料のびんは資源化可能)